spiral®

Spiral Press Release
September 2006

SICF

第 7 回 SICF グランプリ
松田直樹展「大和撫子（やまとなでしこ）」

2006 年 10 月 28 日（土）～10 月 31 日（火）
ショウケース（スパイラル 1F）

広報に関するお問い合わせ
スパイラル／株式会社ワコールアートセンター
津留崎麻子／渡邉モイチ／関野玲子
Tel. 03-3498-5605　Fax. 03-3498-7848
E-mail. press@spiral.co.jp

この度スパイラル／株式会社ワコールアートセンターは、2006 年 5 月に開催した第7回 SICF のグランプリ受賞者、松田直樹展覧会を 10 月 28 日（土）から 31 日（火）までスパイラル１F ショウケースで開催する運びになりました。

スパイラルに、髪の毛の巨大なワンピースが出現

第 7 回 SICF グランプリ受賞者、松田直樹は、米粒や髪の毛といったミクロの集積によって人間の想いを表す、新進アーティストです。今回の展覧会で松田が発表するのは、人間の髪の毛で作られた幅 1.8m×高さ 2.6m の巨大なワンピース。髪の毛一本一本で輪を作り、繋げてワンピースの形に仕上げていくという、シンプルかつ膨大で繊細な手作業。そこで松田がこだわるものは、「髪の毛」に表象される人々の欲望です。

「ヘアサロンなどが多く立ち並ぶ、ファッションの街・青山のランドマーク的存在のスパイラルで、人間の持つ“きれいになりたい”という欲望や執着を表現したい」と松田は語ります。
シンプルな素材が集積することによって輪郭付けられる、人間の欲望。その存在感に対する新しい感じ方を、松田は私たちに提示してくれます。

今回の作品「大和撫子」には、実際に青山のヘアサロンで切られた髪の毛を使用しています。

一つの素材にこだわり続ける集中力が評価された作品「エプロン」

松田直樹は、レース生地に米粒を貼り付けたエプロンを第 7 回 SICF に出展しました。
一見すると普通の白いエプロンかに思えるその作品は、近づいてみると全面に米粒がぎっしり貼り付けられており、「米」という日本人にとって身近な素材を、食卓のシンボルであるエプロンに貼り付けて「食物」への感謝を表すというユニークなストーリー性、そして数ある作品の中で群を抜くその際立つ作業量と集中力などが審査員の高い評価を得ています。

第 7 回 SICF グランプリ作品
「エプロン」2006
レース地全面に米を貼り付けた作品
（96×59cm）

SICF（スパイラル・インディペンデント・クリエーターズ・フェスティバル）

SICF とは、独自の創作活動を展開する若きクリエーターたちに作品発表の場を提供する、スパイラル主催のイベントです。
美術、デザイン、ファッション、音楽、映像、CG などあらゆるにジャンルに渡る自由な創作活動を展開するクリエーターと来場者とのプレゼンテーション＆コミュニケーションの場を提供する目的で、スパイラルが 2000 年から年 1 回のペースで開催しています。
2006 年 5 月に開催した第 7 回 SICF では事前審査を通過した 100 組のクリエーターが出展し、松田直樹の「エプロン」がグランプリを受賞しました。

【松田直樹に寄せる審査員のコメント】

SICF では、毎回国内外での幅広い分野でのクリエーションに携わる審査員が審査を行っています。

◆第 7 回 SICF グランプリ　松田直樹展「大和撫子」へ向けて◆

南條史生（森美術館副館長）

松田氏の作品が受賞したのは、その集中力、手作業、緻密さの圧倒的な説得力が誰をも納得させたからである。米粒が一面に植え付けられたドレスの形をした彫刻。それは一別すると単なる白いドレスにすぎないが、
いったん表面に密集する米粒に気が付くと、誰しもそれがただごとではない、濃密な作業の集積であることに気が付くだろう。目に見える形で時間と労働が凝縮されていると、それは理屈抜きに人を感動させる。
グランプリ受賞を受けて今回発表する作品は、髪の毛を用いている。それは同じように細かく気の遠くなるような作業の結実である。そしてそれが 2．5 メートルの高さにそそり立つとき、見る人は再びその繊細さと巨大さに圧倒されるに違いない。
もっとも身近な素材を象徴的に使い、身近なドレスの形に仕上げる彼の手法は、今後も表現の新しい地平を開いていくだろう。

浅井隆（アップリンク主催）

受賞する作品はバランスが取れている作品である。
スポーツで言うところの「心技体」でいえば、この SICF では“心”“技”“美”であろうか。
松田直樹さんの作品は近付いて見て、そしてもう一度離れてみてその「心技美」のバランスが優れているのがわかるのであった。

佐藤尊彦（INTETRNATIONAL GALLERY BEAMS 兼 B GALLERY プランナー）

「米のエプロン」は日本人のアイデンティティか？
昨年のグランプリ、塩保朋子さん同様、
地道に、こつこつと、時間を掛けて作りあげる姿勢は農耕民族そのものだ。
しかも、作品から聞こえる声には方言が混ざっていた。
大都会で出会った「個」の声。
松田君は、「個人レベルの食欲」をユーモアな視点で作品に昇華した。
日常の欲求に対する純朴な表現が、いとおしい。
僕は彼の作品を、「青年の主張」と勝手に呼んでいる。

【アーティスト略歴】

松田直樹（まつだなおき）

1983 年埼玉県生まれ、
2003 年東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻入学。同年、取手の壁画プロジェクトボランティアに参加。
「納豆展」（デザインフェスタギャラリー、2005 年）や「ほこり猫」（ギャラリーDEX、2006 年）などを経て
第 7 回 SICF でグランプリを受賞した。

これまでの作家活動

2006年　高橋藝友会賞受賞
第7回 SICF（スパイラルホール／東京）グランプリ受賞
「リンゴ美術館展」（ART LABORATORY R3／群馬）
「ほこり猫」（ギャラリーDEX／関内）
「ストリート！2006」展（Break Station Gallery／東京）

2005年　グループ展「彩の会3」（ギャラリー採光舎）
サムホール展（浦和岸町コミュニティーセンター）
取手サイクルアートフェスティバル参加（取手競輪場）
「リンゴ美術館展」（ギャラリー採光舎／アップルミュージアム）
「納豆展」（デザインフェスタギャラリー／東京）
GEISAI7（東京ビッグサイト／東京）
グループ展「彩の会2」（埼玉会館／埼玉）

2004 年　久米賞受賞（東京芸術大学立体工房にて受賞者展）

「ほこり猫」2006
2×2m のクラフト紙で作った
ベースにほこり、魚の骨を付けて
作った作品

「なっとうにんげん」2005
ジャコメッティの「歩く男」から
インスピレーションを得、納豆の
粒状で再現を試みた作品

「サンダル」2004
アスファルトではない道を歩く
感触を再現した、参加型の作品

開催概要

タイトル　第 7 回 SICF グランプリ　松田直樹展「大和撫子」
会期　2006 年 10 月 28 日（土）～10 月 31 日（火）
11：00～20：00　会期中無休
※27 日（金）にオープニングパーティを開催予定
会場　ショウケース
東京都港区南青山 5-6-23　スパイラル 1F
主催　株式会社ワコールアートセンター
企画制作　スパイラル
協力　SPICE